

魚類学雑誌 別冊

22 卷 1 号 : 46-48, figs. 1-2.

1975 年 8 月 20 日

沖縄県産のスナゴハゼ (新称) *Pseudogobius javanicus* について

明仁 親王・目黒 勝介

On a Goby *Pseudogobius javanicus* from
Okinawa Prefecture, Japan

Prince Akihito and Katsusuke Meguro

沖縄県産のスナゴハゼ (新称) *Pseudogobius javanicus* について

明仁親王・目黒 勝介

On a Goby *Pseudogobius javanicus* from
Okinawa Prefecture, Japan

Prince Akihito and Katsusuke Meguro

(Received October 5, 1974)

Specimens of a dwarf goby which agree well with the holotype of *Gobius javanicus* Bleeker, were obtained from Okinawa Prefecture. They agree also with the description and figure of *Vaimosa piapensis* Herre. A new Japanese name "sunagohaze" is given for this species. As stated by Aurich (1938: 160), the generic name *Pseudogobius* Popta should be adopted for this species, and thus, *Pseudogobius javanicus* (Bleeker) is appropriate scientific name. (The Crown Prince's Palace, Minato-ku, Tokyo, 107, Japan)

日本において未だ記載されていない、透明な体に砂子状の暗色点が散在する小型のハゼが沖縄県で採集されていた。これを *Gobius javanicus* Bleeker の模式標本と比較したところ、同一種とすることが妥当であると考えられた。本種には新たにスナゴハゼの和名を付した。以下この標本について特徴を記述し、報告する。

Pseudogobius javanicus (Bleeker)

スナゴハゼ (新称) (Fig. 1)

Gobius javanicus Bleeker, 1856 : 88

Pseudogobius javanicus (Bleeker) Popta, 1922: 36

Vaimosa piapensis Herre, 1927: 147, pl. 10, fig. 3

Stigmatogobius javanicus (Bleeker) Koumans, 1932: 11
材料

用いた材料の採集地、採集年月日は次の通りである。角括弧内は個体数、丸括弧内は標準体長 (mm) を示す。

Pseudogobius javanicus スナゴハゼ: RMNH (Rijksmuseum van Natuurlijke Historie, Leiden) 4549, holotype of *Gobius javanicus* Bleeker, S. Java, Indonesia, in collection of Bleeker, [1] (33), [2] (32); LICPP (Laboratory of Ichthyology, The Crown Prince's Palace, Tokyo) 1964008, 沖縄県 (石垣島) 宮良川河口, III: 1964 [1] (26); LICPP 1964090, 同上 (沖縄島) 中部河川, VI: 1964 [3] (28~34); LICPP 1966057, 同上 (沖縄島), III: 1966 [2] (25~27); LICPP 1967078, 同上 (石垣島) 名蔵川河口, III: 27: 1967 [1] (28); LICPP 1967079, 同上 (石垣島) 宮良川河口, III: 13: 1967 [1] (30); LICPP 1968282, 同上 (沖縄島) 嘉手納, III: 26: 1968 [1] (21); LICPP 1971174, 同上 (石垣島) 名蔵湾に注ぐ小川の河口, X: 28: 1971 [3] (23~28); LICPP 1972202, 同上 (石垣島) 川平, VII: 28: 1972 [3] (27~29); LICPP 1972203, 同上 (石垣島) 名蔵, VII: 28: 1972 [2] (26~27); LICPP 1972204, 同上 (石垣島) 名蔵, [4] (32~33).

Mugilogobius fontinalis イズミハゼ: LICPP 1966033, 沖縄県 (沖縄島) 美里村字泡瀬, III: 15: 1966 [5] (26~34).

Stigmatogobius sadanundio: LICPP 1965047, Nibong River, Malacca, Malaysia, II: 13: 1965 [5] (44~48).

記載

沖縄県産スナゴハゼおよび *G. javanicus* の模式標本の計数値は Table 1 に示した。

体形は前鰓蓋部後縁と胸鰭基部の位置でそれぞれ高さ、幅ともほぼ同じであり、それより後方で側扁する。

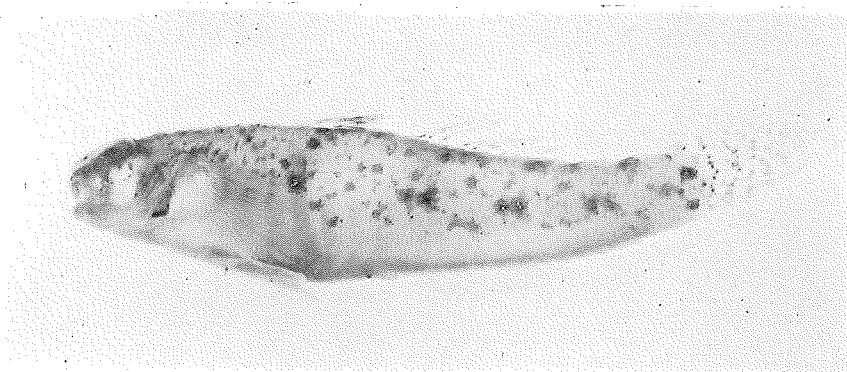


Fig. 1. *Pseudogobius javanicus* (Bleeker), specimen (LICPP 1967079, 30 mm in standard length) from Ishigakijima, Okinawa Pref., Japan.

Table 1. Counts and measurements of *Pseudogobius javanicus*. Numerals in parentheses indicate the number of specimens examined.

	RMNH 4549 holotype of <i>Gobius javanicus</i>	RMNH 4549 (two specimens)	LICPP (twenty specimens listed in material list)
Total length (mm)	43	39 (1)	28~44
Standard length (mm)	33	32	21~34
Dorsal fin rays	VI-I, 7	VI-I, 7	VI-I, 7
Anal fin rays	I, 7	I, 7	I, 7
Pectoral fin rays	15	14~15	14 (1), 15 (11), 16 (8)
Segmented caudal fin rays	—	—	9+7=16 (2)
Scales in a longitudinal series	29	28~29	28 (3), 29 (11), 30 (6)
Scales in a transverse series	7	7	7 (19), 8 (1)
Predorsal scales	7	7	7
Gill-rakers	—	—	0+2 (1), 1+3 (1)
Vertebrae	26	26	26 (14), 27 (1)

吻端は円くふくらみ、上唇にかかっている。前鼻孔は下方に突出し、上唇に接している。眼は大きく、眼径は吻長より長い。眼隔域は眼径の 1/2 より狭い。上顎は下顎より長い。主上顎骨の後端はほぼ眼の中心下に達する。上顎長は雄の方がわずかに長い。歯は上顎に 1 列、下顎に 2 列ある。舌端は戟形である。鰓孔下端は腰帯の前端よりも後方にある。腹鱗の膜蓋は平滑であり、癒合膜に切込みはない。

吻、頬は無鱗、鰓蓋部、後頭部、腹鰭前部は円鱗、他は櫛鱗が見られる。背側正中線上の最前鱗は眼の後縁の位置より前にかかっている。背鰭前部の正中線上の鱗の中では前方の鱗の方が大きい。感覚管は多くの消失部分が認められる。前眼肩胛管に開孔 C', D (単一), E, F' がある (Fig. 2)。しかし、その後方には感覚管はなく、

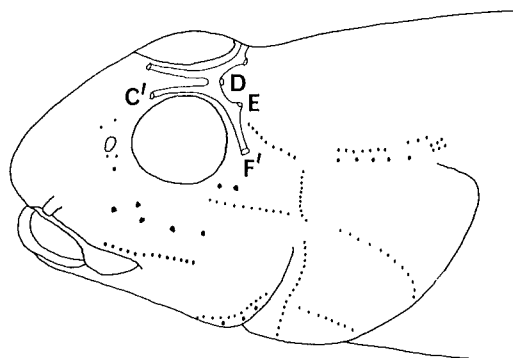


Fig. 2. Schematic illustration of sensory canals and pit organs of *Pseudogobius javanicus*. C'...F', sensory canal pores.

* 感覚管開孔は前報 (明仁親王, 1971: fig. 1A) にしたがって記し、感覚管端開孔は ' をもって示す。

また前鰓蓋管もない。孔器列は Fig. 2 に示した。

腹側を除く体一面に暗色点が散在する。眼の下半部から 4 暗色帯が出る。第 1 背鰭後部の位置から前下方にかけて体側に 1 暗色帯が斜行している。臀鰭基部から尾柄部にかけて腹側正中線上に数個の暗色斑がある。第 1 背鰭の上部は暗色であり、第 5, 第 6 棘の間に 1 濃暗色斑がある。第 2 背鰭と尾鰭には暗色点が散在するが、臀鰭、胸鰭、腹鰭にはない。なお、背側が薄暗色で数列の横帯の見られる個体もあった。

咽舌骨の先端はやや丸みをおびた戟形で、長さより幅が広い。上下両後鎖骨はない。第 1 背鰭の第 1 担鰭骨は第 3, 第 4 脊椎骨の神経棘の間にあり、第 2, 第 3 担鰭骨の 2 本は次の神経棘との間にある。第 2 背鰭の第 1, 第 2 担鰭骨は第 9 脊椎骨の神経棘にまたがっている。第 1 背鰭の最後担鰭骨と第 2 背鰭の第 1 担鰭骨の間には 2 本の神経棘がある。

考察

Vaimosa piapensis Herre は原記載と図から見て Aurich (1938: 158) の指摘するように *Gobius javanicus* のシノニムと考えられる。従って前報 (明仁親王, 1967: 174) で肩胛骨を扱った際、*V. piapensis* としたものはスナゴハゼ *G. javanicus* と改めるべきものである。なお、富山 (1965: 364) はヒナハゼの学名に *G. javanicus** を用いており、その記載と図は Herre (1927: 153, pl. 12, fig. 1) の *Vaimosa tessellata* の原記載と図に従っている。このたび *G. javanicus* を調べた結果、*V. tessellata* の原記載と図は *G. javanicus* とははっきり区別されうる

* Tomiyama (1936: 70) ではヒナハゼの学名として *Gobius tessellata* (Herre) を用いている。ヒナハゼの学名については別に報告する。

ことが明らかになった。

スナゴハゼの属名として用いた *Pseudogobius* Popta は Aurich (1938: 158) によれば *G. javanicus* を模式種としている。Koumans (1932: 11) はスナゴハゼを *Stigmatogobius* 属に含めている。しかし *Stigmatogobius* 属の模式種 *Gobius pleurostigma* Bleeker (*G. pleurostigma* は Bleeker (1878: 202) により *Gobius sadanundio* Hamilton のシノニムとされた) と比較すると *S. sadanundio* は吻端が円くふくらまないこと、眼隔域が眼径より広いこと、感覚管開孔 D が 1 対、E がないこと、下顎は上顎より長いこと、二叉状肩胛骨型に属すること、下後鎖骨があることにより明瞭な差が認められる。また *Vaimosa* 属の模式種イヅミハゼ *V. fontinalis* Jordan and Seale は鱗が小さく (縦列鱗数 38~40)、後頭部鱗が他の鱗と較べて大きくないこと、感覚管がないこと、下後鎖骨があることにより区別される。なお、*Vaimosa* 属は *Mugilogobius* 属のシノニムにされている (Koumans, 1940: 124)。それゆえ、スナゴハゼの属名に *Pseudogobius* を用いるのが妥当と考える。

謝 辞

これを書くにあたり、貴重な模式標本を貸与して頂いた Rijksmuseum van Natuurlijke Historie の Marinus Boeseman 博士、種々助言して頂いた東海区水産研究所阿部宗明博士、日本ルーテル神学大学教授上野輝弥博士ならびに東宮侍従八木貞二氏、同富士亮博士に対し深く感謝の意を表する。なお、計数值などは坂本勝一総理府技官の協力を得た。深く感謝する。

引用文献

- 明仁親王, 1967. 続ハゼ科魚類の肩胛骨について. 魚類学雑誌, 14 (4/6): 167~182, figs. 1~4.
- 明仁親王, 1971. ハゼ科魚類の上顎骨について. 魚類学雑誌, 18 (2): 57~64, figs. 1~2.
- Aurich, H. J. 1938. Die Gobiiden (Ordnung Gobiidea). In Mitteilung 28 der Wallacea-Expedition Woltereck. Int. Rev. Ges. Hydrobiol. Hydrograph., 38: 125~183, figs. 1~28.
- Bleeker, P. 1856. Verlag omtrent eenige vischsoorten gevangen aan de Zuidkust van Malang in Oost-Java. Nat. Tijdschr. Ned. Ind. 11: 81~92.
- Bleeker, P. 1878. Description des especes insulindiennes du genre *Stigmatogobius*. Versl. Akad. Amsterdam 2 (12): 199~208.
- Herre, A. W. 1927. Gobies of the Philippines and the China Sea. Bur. Sci., Manila, Monograph 23: 1~352, pls. 1~30.
- Koumans, F. P. 1932. Notes on gobioid fishes (1-5). Zool. Meded., Leiden, 15: 1~16.
- Koumans, F. P. 1940. Results of a reexamination of types and specimens of gobioid fishes, with notes on the fishfauna of the surroundings of Batavia. Zool. Meded., Leiden, 22: 121~210.
- Popta, C. M. L. 1922. Vierte und letzte Fortsetzung der Beschreibung von neuen Fischarten der Sunda-Expedition. Zool. Meded., Leiden, 7: 27~39.
- Tomiya, I. 1936. Gobiidae of Japan. Japan J. Zool., 7 (1): 37~112, figs. 1~44.
- 富山一郎, 1965. [ハゼ目], p. 355~375. 岡田要ほか監修, 新日本動物図鑑, 下. 北隆館, 東京, (107, 東京都港区元赤坂 東宮御所)